

## 2023年12月3日(日)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

「私は何者であるか?」「私達人類は何者なのか?」

意識を臍下丹田に置き静かに鎮め、そうした問いを自らに投げかけるとき、いのちは厳肅な閃き（第一直観）として私達に回答してくれます。

「“我即神也”、“人類即神也”である」と…。

『神と人間』に紐解かれた森羅万象の真実を心に留めつつ、そのような内なる問答を繰り返してゆくうちに、最奥の“場”として私達が行き着くのは宇宙の大元（いのちの源）であります。そのように源の原初に立ち戻り、そこから宇宙創造のプロセスに沿って肉体心へ戻ってくると、様々な疑問が解消してきます。

（解消する疑問の代表的な例）

「人類の正体とその構造」「一つの銀河系における恒星・惑星・衛星の関係」「新しい星に創造主の理念を展開（開発）するプロセス」「ミクロとマクロの類似性」「精神性と物質性の概要」等々

宇宙の創造主である“いのちの源”は、個々の惑星に自らの理念を展開する者として、”人類”に自らの性質を分け与えると共に自由意志を与えられました。前述の「自らの理念」とは、「無限なる進化を果たしながら大調和した世界を生成運行すること」です。そしてそれは、大宇宙を運行するうえでの厳正なる法則であります。

その大元の理念、宇宙法則の立場に立って地球の現状を見渡すとき、この星の現状は誰の目にも大調和した世界であるとはいえません。しかし“いのちの源”はそのプロセスをもって、私達を責めてもおられず慌ててもおられません。ただ変わることなく悠々と光を放ち、私達に生命の素(もと)のエネルギーを供給し続け、すべてを生かしておられる。

それは、私達人類が惑星開発の途上にあって、一時的に“いのちの記憶喪失”に陥ることさえも、創造主が当初から組み込まれたプログラムであるからです。また、どのように人類の心が荒廃していようと、いずれの日にかは“いのちの本質である神聖”を思い出し、人類個々がその心身に生命の本質たる大調和の性質を顕わし、それぞれの長所を持ち寄り協力し合い、惑星開発に携わることになる未来を観ておられるからであります。

いずれこの星に展開する神聖文明の時代は、そのように創造主の理念を思い出し自らの心身を創造主の分身として認識する人たちばかりの世界です。その世界にエゴはありません。自己顯示欲も存在しません。自他を引き比べ「あいつより俺の方が…」と正義を強要する人もいなければ、「あの土地が欲しいから…」と力尽くでも略奪しようとする人もいません。共通の理念を持ちながら、自らの役割を喜びをもって果たす人ばかりの世界であります。

土曜日の夜はそのように、愛と調和と真理が渾然一体となった未来文明の世界から過去の世界に戻ってきたような気持ちで、この惑星に起こっているあらゆる出来事や現象を批判・非難・評価なしに見つめてゆきたいと思います。そうすることで私達は、いつの間にか善への把われからも解き放たれます。そして、全人類と大自然と生きとし生けるものすべてを自らの内に観て、すべてを生かす光を常時放ち続ける真の神人となり得ます。

## 2023年12月3日(日)夜 『神聖で繋がり合う日』 始めのお話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。今夜は、「私は神そのものであり、人類もまた神そのものである」と、心の底から人間の本質を認める時間にしてまいりたいと思います。

そしてその意識でもって、現在の世界を不調和にしている原因の“男性性と女性性のマイナス面・短所”を抱きしめながら、心の奥に抑圧してきた“男性性と女性性のプラス面・その実体・長所”をシッカリと顕わしつつ、生命本来の大調和の響きを世界に響かせてまいります。

男性性と女性性の話につきましては、10月14日土曜の夜に一度取り上げましたが、先月11月23日木曜日の五井平和財団フォーラムでも話題に上がっておりましたし、大調和した状態が当り前の世界を創りあげてゆくためにも大切なことでもありますので、再度ここで確認してまいりたいと思います。

今回は、男性性と女性性がどのような構造になっているのかを、道教のシンボル、太陰太極図をお借りして見てまいりたいと思います。なぜこの図を取り上げたかと申しますと、この絵が男性性と女性性の関係性と、それぞれが持つ陰陽・プラスマイナスの在り方を説明するのに最適だからです。



全体を見ますと、右と左に白と黒の勾玉状の形があります。どちらが男性性でどちらが女性性と見てもかまいませんが、ここでは黒を女性性、白を男性性と見ます。白と黒のそれぞれを見ますと、黒のなかに白が、白の中に黒があります。黒い色を見てみると、大きな黒が女性性の実体、陰陽の陽で、その中の小さな白が女性性の影、陰陽の陰ということになります。

その見方で白い色を見ると、大きな白が男性性の実体、陰陽の陽で、その中の小さな白が男性性の影、陰陽の陰となります。

この絵が人間の本来あるべき正常な男性性と女性性の状態を示しているとしますと、現代人の心の中がどうなっているかと申しますと、影の小さな部分、陰陽の陰の部分がいびつに大きくなっていて、実体である大きな部分が小さくなってしまっているといえます。陰と陽、実体と影が逆転してしまっているということです。

そうすると何が起こるかと申しますと、お釈迦様がおっしゃった「顛倒妄想」した世界が出来上ります。

女性性の影である大きな黒のなかの白い部分がいびつに大きくなると、女性性の短所である“他者への執着”、“依存”、“妬心”、“独占欲”などが表面化して心の中に渦巻きます。これらの動きは主に心の内面で働きます。

また、男性性の影である大きな白のなかの黒い部分がいびつに大きくなると、現在の世界情勢に現われているように、弱肉強食的な攻撃性が前面に現われて、“戦ってでも奪い取る”、“相手を殺してでも野心を遂げる”、“他人に自分の言うことを聞かせないと気が済まない”という形で、世の中に不調和な響きをまき散らすことになります。こうした男性性の影の動きは、外に向かって働きかけますので、他者に大きな影響を及ぼします。

ここまで話してまいりますと、なぜ今、“女性性を活性化することの重要性”が取り沙汰されているのかを理解することが出来ます。それは、世界に表面的な影響を及ぼしているのが男性性の影の部分、短所であり、男性性と女性性の長所がまったく弱く、表面化していない状態だからです。

現状の世界を最短の時間で調和させるためには、女性性の長所である実体の部分、大きな黒い色の部分を、私達ひとりひとりの心のなかに打ち出してゆくことが大切です。それが男性性の影、短所を中和するのに最大の効果を発揮する方法だからです。

ですから、私達は男性性と女性性の長所のうち、男性性の短所を効果的に中和する働きを持った女性性の長所・実体を、意識して想念・言葉、行為に打ち出してゆく必要があるわけです。

本日は私達のいのちが、そのように大きな慈しみの心、愛そのものの性質を持っていることを自覚しながら、地球界に“生かされて生きることの喜びと感謝”の種を蒔いてまいります。そのとき、私達の本心・本体は、この世のすべての存在に祝福の光を振り撒いています。そのことに自信と確信を持って、地球にかかわるすべての状況と脳裡をよぎる想いを一望しながら、『すべてを生かし育むいのちの大元からの光』を放ってまいります。

それでは時間になりましたので、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。三分半のCDを使って行ないますので、眼を閉じて神聖の視座に焦点を合わせてお祈りください。私が「はい、ありがとうございます」と申し上げましたら目を開けてください。